

次 第

日時：平成 27 年 1 月 30 日（金）午前 10 時 00 分から

場所：掛川市庁舎 5 階 全員協議会室

1 開 会

2 あいさつ

会 長 おはようございます。お手元の次第にありますように、今日は 5 回目の会議でございます。たぶん今回が最終回になろうかと思えます。後程ご案内を申し上げますが、今までの会議での振り返り、あるいは今後の施策への期待等も含めまして、ご出席の委員から一言ずつお話をいただければと思っております。限られた時間ではございますがよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

佐藤部長改めまして、おはようございます。大変お忙しい中、今年度の第 5 回会議に出席いただき大変ありがとうございます。今回の支援計画につきましては昨年から通算 8 回、大変活発なご議論をいただきまして、昨年末には市民の皆様にはパブリックコメントを、という段階までまとめ上げていただきました。今回は、昨年 11 月末から 1 か月かけて行ったパブリックコメントのご意見等々、この計画の中に反映をさせていただいた部分もありますので、その辺についてご協議をいただき、成案としたいと思います。国の新制度につきましてはまだまだ不透明なところがあります。ただ、本年の 4 月 1 日からは新制度をスタートするということは決定しております。この新制度をするにあたって色々ご議論をいただいた、保育・教育の需要と、それに対する対応ということが、この国が求めてきた需要と供給対策ということでありましたが、それと共にご議論をいただいた 1 編の第 3 章（P48～P71）まで、この掛川市としての子ども支援としてどういう基本理念で、どういう目標を持って、それをどういう手立てで達成していくかという、この子育て支援全般が非常に大切なことであろうと思えます。そしてまたこの計画ができて、これを実行していくということが大変重要なこととなります。その意味で、委員の皆さんにはまたご意見をいただく機会があると思えますので、是非またよろしくお願いいたします。市長が 3 つの日本一というものを掲げてやってまいったわけですが、今回見直しがあり、新しく教育・文化、健康・子育て支援、環境の 3 つの日本一ということで、教育・文化というものも入りましたし、子育て支援も日本一を目指して進めていくということでございます。そういう意味で皆さんがご議論いただいた支援事業計画というものは、その礎、ベースメントになっているところだと思えます。

3 協議事項

(1) 掛川市子ども・子育て支援事業計画（案）について

・事務局より説明

会 長 いかがでしょうか。ご質問・ご意見、あるいは最終回になりますので、文言等の訂正等を含めて

お気づきのところがありましたら。

委員 パブリックコメントの件について。閲覧方法として、市のホームページが上がっているが、11月27日に市のホームページでこのパブリックコメントが開けなかった。市役所に連絡して1時間以内に開けるようになったのはありがたかったが、最終日の12月26日も夕方18時頃にやはり開けなかった。何でその時間帯に閉じてしまったのか。せつくなのできちんと日付の限りは開けるようにしてほしい。結果の資料については、意見を出してくれた8人の方にはどういう形でお知らせするのが知りたい。

事務局 結果の資料について、パブリックコメントのご案内の中にも記載されていると思うが、個別の方への直接的な回答はせず、ホームページ上で公表するとなっているので、そのようにする。パブリックコメント最終日の26日にホームページが見られなくなっていた件は、17時15分で閉鎖したため、それ以降は見られなくなった。

委員 ホームページは24時間見られるものであり、FAXも24時間稼働しているものである。18時に職員がアクセスしたら「できません」とのことだった。18時はまだ26日だと思うので、日付変更まで開いた方が良くと思う。資料1の22～24の回答については、一般市民の方に直接かわること。ぜひ多子軽減はやってほしいと思う。

事務局 パブリックコメントの件は、長めにする方が意見をたくさんもらえる。今後のパブリックコメント時に反映したい。多子軽減は検討の真っ最中である。

会長 P83に「平成27年度中に掛川区域に小規模保育が1園開園する予定のため」とあるが、「小規模保育」というのは形態を指す言葉だと思うので、「保育が開園する」という表現はおかしい。「小規模保育園」ではまずいいのか。あるいは「小規模保育を実施する保育園が1園開園するため」という文言の方がすんなりいくかと思う。検討してほしい。

事務局 ご指摘の通りだと思う。「園」がいいのか「所」がいいのか、施設という部分に分かる表記にしたいと思う。関連するページが何ページもあるので、合わせて修正をしたいと思います。

会長 保育園は正式名は保育所。本来はそれで行く方が正式。しかし一般的には幼稚園が「園」だから、「園」の方が通じやすい。あまり固く考える必要はないかもしれないが、法律の中では保育園と出てくるところはないので、それも合わせて検討してほしい。

(2) 計画の推進体制について

・事務局より説明

会長 ただいまの説明に関しまして、意見・ご質問ありましたら、いかがでしょうか。

・委員より、質問や意見なし

会長 よろしいでしょうか。

この計画を具体化していくためには色々課題が出てきそうだということで、場合によるとこの計画の一部修正をしていかなければならないような状況も出てくると思う。この計画を更に磨きをかけていいものにしていければと思うので、よろしくお願ひしたい。

・各委員より挨拶

会長 25年度、26年度の2ヶ年をかけ、本日まで合計8回の会議を行い、「掛川市子ども・子育て支援

事業計画」の検討を行ってきました。

本日で会議における検討は最終となりましたので、委員のみなさまから一言ずつ、会議の感想や今後の子育て支援への期待等いただけますでしょうか。

委員 初めの頃は自分には難しすぎて、雲の上の話を聞いているようで、あまり身近ではない感じがしていた。実際に子育てをしてみて、自分が掛川を好きになれるかな、と思いながら会議に参加させていただいた。このような計画の下で、母親たちがいつでも掛川市に見守ってもらっていると感じながら子育てができる社会になるとよい。これを読み返しながら自分もがんばらないといけないと思った。これから子どもが大きくなっていって、掛川で育って良かったな、自分も掛川に居を構えたいと思わせてあげられるような教育を家庭でしていきたい。ありがとうございました。

委員 先日、掛川市の総合計画の審議会があり、その会議で私はこの子ども・子育て会議の代表として出席した。そちらとも絡む話だが、掛川市だけのことではなくて、今、日本がどういう問題を抱えているかということ、人口減少、少子高齢化、これほどこの自治体でも同じ。その審議会で出された資料で、子どもと老人の人口比がこうになってしまう、というかなり驚くべき数字が示された。私はその会議で話したのは、たぶんここにいる皆さんは1960年代・70年代・80年代に子どもだったんじゃないかと想像するが、1960年代は14歳以下の子どもの数が約30%、65歳以上のお年寄りも6%くらいしかいなかった。70年代にはそれが24%対8%、80年代になると22%対9%くらい、というようにだんだん減ってきた。では2010年はどうかということ、子どもはもう既に12~3%、老人はなんと24%と逆転している。我々が子どものときには「老人を敬え」と色々なところで教育された。電車にはシルバーシートがあって席を譲りなさいと。それはもちろんお年を召された方は人生の先輩であるし、尊敬の念を持って接しなければならないということもあるけれども、希少価値があるから、少ないから大切にしなければならないというのがあった。それが今は逆転してしまった。10年後、20年後になると、どんどんその差が広がって子どもは数%になり、30~40年後には65歳以上が40%になる。ということは、もうこの辺で価値観を転換して、もしかしたら皆さん不本意かもしれないけれども、少ない子どもは大事だから敬わなくてはならない、と国民全体が思想を変えていかないと、結局この国はどんどん人口が減って、消滅してしまう危機を迎えるということではないかなと。そして、市がやれる政策は、思うに2つしかない。掛川市の人口をなるべく減らさないようにするためには、外部から掛川市に引っ越してきてもらうか、新たに子どもを産んで育てる、この2つしかないのではないかな。そう考えると、この子どもに対する施策というのはこれから非常に重要であって、子どもと子どもを育てている人たちを大事にしていかなければならない。これを市民全体、国民全体でやっていかなくてはならない。私はこの会議の中で0歳児を保育園に預けるのはどうか、という発言を何度もさせていただいた。それはお金の面もあるし、母親との愛着という面も当然ある。もう一つ言っていなかったことがあり、生物学的に人間というものを考えた時に、哺乳類動物はお母さんから子どもが生まれ、数時間で立ち上がる。つまり動物の赤ちゃんは小さい大人かな、という認識ができるけれども、人間はそうではない。人間は頭が大きくてお母さんの産道を通れないため、未熟な状態で生まれてくる。そして生まれてから歩くまで1年間を要する。要するに0歳児の1年間というのは本来はまだお母さんのお腹の中にいるべき期間であって、それを引き離してしま

うのは、生物学的にも弊害があるのではないかという考えを私は持っている。さっき言った人口減少とか少子高齢化も絡めて、小さい子どもと、産んだお母さん、育てている家族を市民全体が敬って、その人たちを精一杯バックアップしていく体制が必要ではないかと思う。職場でも妊娠や出産の報告をすると「え?!」という上司が多いのかもしれない。妊娠・出産することによって休まれてしまう、仕事が滞ってしまうからだが、本当はそうじゃなくて、新しい命を授かったわけなのだから、それは社会全体として喜ばしいことだから、ありがとう、産んでくれるんだからどんどん休んでくれよという社会風潮を、掛川市全体、静岡県、全国、と広めていかないと子どもは増えないと思う。この一年で色々な勉強をたくさんさせてもらい、こんな素晴らしい計画を皆さんで作ることができたので、これからも皆さんと力を合わせて今後の子どもたちのために、私もできることを精いっぱい頑張っていきたい。

委員 細かいことはわからないが、南部への想いとかこれから期待することを話したい。私も大東の出身だが大東には小学校が5校ある。ここ20年間で子どもの数は半分になった。その中で公立の幼稚園が6園ある。当然のごとく定員割れになっている。千浜でいうと160名の定員で50名程という状況である。私立の保育園は3園ある。遡って大東町時代にも幼保一元化の検討会をやった覚えがあるし、掛川市になってからの大須賀を含めた南部の再編計画、検討委員会もやられて、今回のこの計画にも位置付けられた。今度こそはなんとか実現してほしい。パブリックコメントの意見にもあったように、再編計画は地域の理解を得て進めましょと書いてあるが、これはまた大変な話。いくら定員の30%しか園児がいなくても、自分たちの地域の幼稚園、保育園が再編されるとなると、なかなか理解してもらうことは難しい。計画にも書かれているように子どものこと、保護者のことを考えて、然るべきときに然るべき方法でいくことを期待している。特にお願いしたいのは、p66の事業の中の「幼保再編のための推進組織の設置」であり、検討を始められること。平成27年度になったら早々にメンバーを決めて設置されることを強くお願いしておく。

委員 この会議の中で保育のことをもう一度改めて考えた。子育てしやすい掛川市イコール働きやすいということにもつながってくるが、働くために子どもを預けるのではなく、子どもを預けるために働く人が増えてきていると感じている。それを手助けするのは間違っていると考える場面が多くあった。子育てしやすい環境は大事だと思うが、子育ての基本は家庭、両親、家族であるということを忘れないようにこれからもやっていかないといけないと思う。以前にも情報の発信が話題となり、私たちが知らない情報はいっぱいあるので、色々なところでわかればいいと思うが、その情報を知ろうという気持ちがあるのか不安。若い子たちは広報かけがわが届いても、目を通さないこともある。これでは情報がわからない。近所に聞いても若い子は広報を見ないと聞くので、情報を知ろうとする気持ちを持たせてあげないといけないと感じた。

委員 計画推進のメインはどうしても行政になると思う。計画や施策は子どものためにあるのであり、数字はその結果でしかない。数字を伸ばすために子どもを産んでもらうということではなく、子どもが健全に育つ施策を実行した結果、総人口が増えていくというような、ちょっとしたニュアンスの違いではあるが、そのような意識で臨む必要がある。

例えば妊娠から継続した施策をというのが一番目に出てくるが、名張市はフィンランドの方法を取り入れて積極的に取り組んでいるが、視察であるとか、情報の収集であるとか、ただ計画を

作ればいいのではなく血を通わせなくては意味がないので、そういうところを市にきちんと取り組んでいただきたい。子育ての支援というのは難しい部分があって、仕事をするために子どもを預けるという部分は感じることもある。一方で、本気で困っている人もいる。その人たちをどう見つけてどう情報を届けていくかも大切だと思う。一つには、妊娠期からの追いかかけは非常に有効になってくると思うので、こういうところに手をかけてもらうのは大切なことだと思う。この計画に入れるものではないが最近とても気になっているのは、子育て支援センター。市内にも10数か所あるが、1日5時間開けておかななくてはいけない。p32に出ているが、概ね開園時間は9時から15時で、お昼は閉めているので実質5時間というところが多い。ここの対象はどこにも就園していない0、1、2歳がメイン。園にいるこの年齢の子は午後の時間昼寝をしている。国としては早寝、早起き、朝ごはんを推奨している。これは生活のリズムを作りなさいということでもある。そこで昼寝をしない0、1、2歳はどうなんだろうと最近悩んでいる。支援センターの成り立ちは15年くらい前で、その頃は子育てに困っている人たちの相談業務も含めてやってきたという経過はあると思うが、ここを開けていると13時から15時の間子どもは起きている。母親にとっては支援になるが、子どもが起きていることを私たちが手助けしているような気持ちになる。眠いののに遊んでいるとぐずりだすことも多い。例えば家に帰る途中16時頃から寝てしまって、17時に起きてごはんというとその後はもう寝ない。こうして生活サイクルを乱してしまうのを私たちが助長してしまっているのではないかと、非常に最近ジレンマに陥っている。何か考えないといけないが、開園5時間という壁がある。母親の相談を受けるという意味では必要なことでもあるので、その時間帯を閉じてしまえばいいということも一概には言えないが、そういったことも考えていかななくてはいけない。制度のために子どもの生活が乱れてしまうようなことは辛いと感じた。

委員 こんなに難しい話ばかりだと想像していなかった。以前自分の子どもについて、保育園に入れませんという通知をいただいて、このことをいつも思い出しながら話を聞いていた。こういうことがなくなればいいなと思っていた。今一番関心があるのは学童のことで、この会議には学童保育の保護者や指導員などが入っていないので、次回の委員を決める際にはそういう方たちも入ってもらってよいのではと感じた。

委員 この会議は本当に難しかったが、色々な人の意見が聞けていい勉強ができたと思う。緊急で学童保育に入らなければいけない子どもがいたことがあったが、その父の勤め先は2週間のお休みをくれた。子育てに優しい会社もあるんだなと感じた。

私の地元の小学校も児童数がどんどん減ってきている。講師となって保護者に話をさせてもらう機会があり、子育てと介護のことを話した。介護はあと何年続くのか先が見えないが、子育ては先が見えている。この時期にやらなくてはいけないことがたくさんあると話した。

市内には多くの学童保育があるが、個人立は1箇所だけ。民間の力は小さいがこのような取り組みも大事なことであると感じる。

委員 社会福祉協議会は、市からの委託を受けて、市内21か所のうち10か所の学童を運営している。平成27年度の学童の利用者募集では、定員を上回る応募があり、利用を断ったケースもあると聞いた。一方、小学4年生以上については、現状受け入れられるところが少ない。計画の中でも平成29年度を目途に提供体制の拡充を図るとされているので期待している。これ以外に社会福

祉協議会は、児童館とか障害児の学童保育所、子育て相談、障害児のお宅へ行っての療育など多くの子育ての事業を行っているので、計画に載っていないにかかわらず、子育ての支援にこれからも努めていく。

会 長 皆さんから色々な想いをうかがい、最先端の現場にいる方々のご意見を聞けた。一言だけ言うと、これだけ平和が続いて、豊かな生活ができるようになったが、実感としての豊かさみたいなものが感じられない。0歳児の子どもは母親がみるべきだろう。生物学的にはおっしゃる通りである。しかし、現在の制度は母親の要望から組み立てられたものではなく、日本の産業をどんな方向に持っていくかというところで全部決められてしまっていると思う。1960年代の終わりから1970年代にかけて、専業主婦という言葉が初めて出てきた。それまでは、農業がメインだったので弥生時代からずっと男性も女性も働いていた。子育ても一緒にやってきた。農業が衰退して第三次産業が増えていくにしたがって、企業戦士を支えるためにということでこれも国の政策だった。どのくらい続いたかというところが長くは続かずに、バブルが崩壊したと同時にダメになった。その後は男性も女性も働く、特に女性が働きやすい環境にと言われるようになった。なぜ男性がもっと関わられるようなスタイルにならないか疑問に思っている。今、分かれ道にきているのかなと思う。介護は時間がわからないが、子育ては時間がわかっている。例えば、0歳から1歳までの間は1年。その間をどうするかということが本来は施策としてきちんと出てこないといけない。お年寄りや家でみなければいけないという価値観でずっとやってきた。しかし、社会全体で支えないといけないようになってきた。これが介護保険である。この後どんな保険が出てくるかと考えると、子育て保険のようなものが導入される可能性があるのではないかと考えたことがある。お話の中で3つの日本一、子育てについてもというお話があったが、こういうベースになる計画が大変大事だが、皆さんから今伺ったような、これからの日本、あるいは掛川にとっての子育てはどんな方向にいったらよいかというような、そんな議論を自由にする時間が、この会議でももっと持てたらよかったなとも思う。会議の最後に色々な課題やヒントを与えていただいた。このあたりをベースにした来年度からの計画推進に期待していきたい。貴重なご意見、ありがとうございました。

4 その他

事務局 この計画を2月20日の市議会・全員協議会で報告したいと考えている。完成した計画書は後日委員の皆さんに送付させていただく。

佐藤部長 2年間子ども・子育て会議の委員をお務めいただきありがとうございました。山本先生には重責を担っていただき、本当にありがとうございました。この計画では、子どもの視点・家庭の視点・地域の視点、これは委員の意見で修正したわけですが、子どもの最善の利益を守るためにということがベースに、3つの視点がしっかりと位置づけられました。子どもの最善の利益を守るためにそれぞれの立場で子育てに関わっているという流れがしっかりとできてきたと思います。今後も色々な考えやご意見をいただきますようお願いいたします。

5 閉 会

事務局 それではこれで本日の会議を終了致します。ありがとうございました。